

2 アクセント・発音と文法

解答

- 問1 ウ
 問2(1) ウ (2) イ
 問3(1) told (2) to me
 問4(1) Mrs. Brown teaches us English.
 (2) Mika gave a nice present to
 (3) My mother made me some chocolate.
 問5(1) ウ (2) エ
 問6(1) is to be a baseball player
 (2) you know when he left his house
 問7(1) ウ (2) イ
 問8(1) that she wanted the bag
 (2) What were they doing

解説

- 問1 ア dɒc-tɒr イ léɪm-ɒn
 ウ wɪð-aʊt エ kɔːl-ɒr
- 問2(1) ウは [ɔ:], それ以外は [ei]。
 (2) イは [θ], それ以外は [ð]。
- 問3(1) 2つの目的語 me 「私に[を]」と a lie 「うそ」があることに注意。tell は <tell + O₁ (人) + O₂(物)> で「O₁(人)に O₂(物)を話す」という意味になる。speak は SVOO の文構造にはならない述語動詞。
 (2) <give + (人) + (物)> で「(人)に(物)を与える[あげる]」という意味になるが、前置詞の to があるので、<give + (物) + to + (人)> の形になることに注意。
- 問4(1) 「(人)に(物)を教える」は <teach + (人) + (物)> または <teach + (物) + to + (人)> で表す。to がないので、teaches us English の語順になる。us と English が目的語の SVOO の文。
 (2) 前置詞の to があることに注意する。ここでは「(人)に(物)をあげる」は <give + (物) + to + (人)> で表す。
 (3) 「(人)に(物)をつくってあげる」は <make + (人) + (物)> または <make + (物) + for

+ (人) > で表す。for がないので, made me some chocolate の語順になる。

おさえよう



<動詞+(物)+to+(人)>の形になる動詞

give, lend, sell, send, show, teach, tell, write など

<動詞+(物)+for+(人)>の形になる動詞

buy, call, get, make など

問5(1) listen はふつう人が主語になる動詞。主語が「彼の趣味」なので, イでは意味が成立しない。ア, エでは文が成立しない。listening to music がC(補語)となる文。

(2) when 以下が know の目的語となる。<疑問詞+主語+動詞>の間接疑問(名詞節)の形にする。

問6(1) My dream が主語, is が動詞の文。is に続く to be a baseball player は補語。

(2) まず, <Do you know ~?>の形をつくる。次に, when は<疑問詞+主語+動詞>の間接疑問の形にし, know のあとに続ける。

問7(1) when 以下が「~だったとき」と過去のことなので, 主節の動詞も過去形にする。

(2) 現在の習慣的な動作は現在形を使う。

問8(1) 直接話法では Mai said, "I want the bag." になる。間接話法の文にする場合, 主節の動詞(said)に従属節の動詞の時制を合わせる。今回の場合は, 過去形に合わせる。従属節の主語が she になることにも注意しよう。

ポイント



主節の動詞が過去・過去完了時制のときは時制の一致が起こる

・主節の動詞が現在・現在完了・未来時制のときは時制の一致は起きない。

(2) 「何を~か」は what を文頭に置いて表す。「彼らは~をしていたか」は過去進行形の疑問文<be 動詞の過去形 (was, were) + 主語 + 動詞の ing 形>の語順にする。

3 会話文と文法

解答

問1(1) ウ (2) ア

問2(1) well (2) old

問3(1) half as large as
(2) as many books as

問4(1) was more interesting than
(2) is more famous than ours
(3) is much higher than

問5(1) most exciting (2) earliest

問6(1) the longest river in
(2) like rugby the best of

解説

問1(1) A: 砂糖を取っていただけませんか。

B: いいですよ。はい, どうぞ。

A: どうもありがとうございます。

B:

A がお礼の言葉を言っているので, ウ「どういたしまして。」が適当。ほかの選択肢の意味は, ア「そのとおりです。」, イ「はい, お願いします。」, エ「それはお気の毒に。」。

(2) A: 今度の土曜日は暇ですか。

B: はい。何もすることがありません。

A: 川で泳ぎませんか。

B:

Why don't we ~? は「(一緒に)~しませんか。」という勧誘の表現。勧誘に対する答えとしては, ア「それはいい考えですね。」が適当。ほかの選択肢の意味は, イ「それが好きだからです。」, ウ「私は忙しいです。」, エ「それはあなたにお似合いです。」。

問2(1) 「…ほど~ではない」は<not as ~ as ...>。

(2) 「…と同じくらいの(年齢)」は<as ~ as ...>。

問3(1) 「…のX倍~」は<X times as ~ as ...>。半分の場合はふつう<half as ~ as ...>。

(2) <as ~ as ...>を使って, 名詞を修飾する形容詞を比較するときは, <as + 形容詞 + 名詞 + as>の語順になるので注意する。

問4(1) interesting の比較級は more interesting。

<比較級 + than ~> の語順にする。

(2) -ous, -ful など で終わる語の比較級・最上級は2音節でも more や most を前につける。

(3) 比較級を強めるときは, much や far などを使う。very は使えない。

おさえよう



形容詞・副詞の比較変化

・ 1音節の場合

① ほとんどは **-(e)r, -(e)st** をつける。

rich – richer – richest

nice – nicer – nicest

② <短母音 + 1子音字> で終わる語のときは子音字を重ねて **-er, -est** をつける。

hot – hotter – hottest

big – bigger – biggest

③ <子音字 + y> で終わる語のときは **y** を **i** に変えて **-er, -est** をつける。

happy – happier – happiest

・ 2音節の場合

形容詞

① **-er, -le, -ow** など で終わる形容詞は **-(e)r, -(e)st** をつける。

clever – cleverer – cleverest

simple – simpler – simplest

narrow – narrower – narrowest

② **-ful, -less, -ous** など で終わる形容詞は **more, most** をつける。

useful – more useful – most useful

famous – more famous – most famous

副詞

① **-ly** のつかない副詞は **-er, -est** をつける。

② <形容詞 + -ly> の副詞は **more, most** をつける。

quickly – more quickly – most quickly

・ 3音節以上の場合

語の前に **more, most** をつける。

expensive – more expensive – most expensive

important – more important – most important

問5(1) 前に the, 後ろに of the three (3つの中で) があるので, 最上級にする。exciting の最上級は most exciting。

(2) 前に the, 後ろに in my family (私の家族の中で) があるので, 最上級にする。語尾の y を i に変えて est をつける。

問6(1) 「一番～な…」は <the + 最上級 + 名詞>。

(2) 「～が一番好きだ」は <like ~ (the) best>。